

NEWS

Kuwana City Medical Center

vol.58 | 消化器内科



Take Free

特集 消化器内科

最善かつ最適な医療の 提供を目指して



当院の消化器内科は、消化器系すべての領域(食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓)に十分な診療が可能な体制をとっています。

消化器とは食事が通過する食道から胃・十二指腸・小腸・大腸までの消化管と食事の消化を助ける消化液を作ったり、吸収した栄養を蓄えたりする膵臓、胆嚢、肝臓です。外科や放射線科と協力しながら最新の機器及び技術を駆使して疾患の診断及び治療にあたっています。

消化器領域における最善かつ最適な医療を提供できるよう、スタッフ一同頑張っています。

対象の疾患

消化管疾患

主な疾患▶ 食道炎、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、腸炎、食道がん、胃がん、大腸がん等

早期の食道がんや胃がん、大腸がんに対しては、拡大内視鏡(約100倍に見える)等の新たなツールを用いて、正確な診断を心がけています。内視鏡を用いてどのくらいの深さまでがんが達しているのか診断したり(深達度診断)、腫瘍が良性か悪性かの診断や病変範囲を把握したり(質的診断)、組織の一部を採取しての細胞診も行っています。可能な場合には、積極的に内視鏡的粘膜切除術(EMR)や内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)等の内視鏡的治療や化学療法を行っています。

※ESD、EMRについては、P6・7で説明します。

胆道・膵臓疾患

主な疾患▶ 胆石症、胆嚢・胆管炎、膵炎、胆嚢がん、膵臓がん等

結石は、できるだけ早期に内視鏡を使って除去し、外科と密接に連携した治療を行っています。悪性腫瘍(がん)が疑われる場合は、超音波内視鏡(EUS)を用いた吸引細胞診(EUS-FNA)を積極的に行っています。これにより、従来に比べ診断率が格段に向上しています。その結果外科的手術を含めた適切な治療方針を決定することができます。黄疸を伴う場合には、内視鏡を使って黄疸を解除するステント(胆汁が流れる管)を挿入後に化学療法を併用する等の積極的治療を行っています。

肝臓疾患

主な疾患▶ 急性肝炎、B型/C型慢性肝炎、肝細胞がん等

C型慢性肝炎に対する治療は進歩が著しく、ペグインターフェロン(従来のインターフェロン注射を改善したものの)、インターフェロン(ウイルス感染時に生態を守るために体内にで作られたタンパク質の一種)などの注射を用いない、経口剤のみによる治療などを適切に行うことで、9割近くの患者さんに薬の効果が得られる時代となりました。肝臓専門医が、ウイルス性肝炎のみならず、近年問題となっているNASH(非アルコール性脂肪性肝炎)等も含めた肝疾患に対し、状況を適切に判断し、積極的な治療を行うことで進展阻止、発がん抑制を目指しています。

さらに肝細胞がんに対しても肝機能や腫瘍の状態を十分に把握したうえで、外科的手術だけでなく、様々な治療法を検討し、積極的な治療を行っています。

消化器内科の役割

外来・入院

地域の医療機関からの紹介患者さんを中心に、消化器疾患の診断・治療を行っています。



治療方針の検討

カンファレンスや、消化器外科など他の診療科との連携を通して最適な治療方針を検討しています。



救急

緊急対応が必要な消化管出血などに対し、24時間緊急内視鏡治療を行っています。



検査

内視鏡をはじめとするCTやエコー(超音波装置)などの医療機器を用いて疾患の診断を行っています。



検査・診断体制

上部内視鏡検査(胃カメラ)

当院では、カメラを口から挿入する経口内視鏡検査と鼻から挿入する経鼻内視鏡検査を行っています。挿入した小さなカメラを使って、食道や胃、十二指腸の検査・治療を行います。必要に応じ、組織の一部を採取したり、病変を切り取ったりしています。



※細い方が経鼻用、太い方が経口用。

下部内視鏡検査(大腸カメラ)

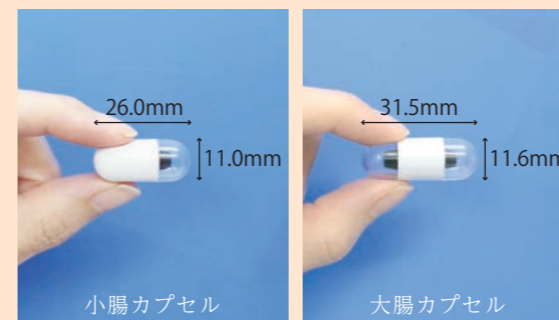


肛門からカメラを挿入し、大腸と小腸の検査を行っています。検査中に組織の一部を採取したり、ポリープなどが見つかった場合には、その場で切除することもできます(サイズや状況によって異なる)。

※1番長くて太いのが大腸カメラです。

カプセル内視鏡検査

小腸と大腸の検査を行うために、超小型カメラを内蔵したカプセルをビタミン剤のように口から飲み込む内視鏡検査です。約8時間かけて体内をゆっくり通過しながら画像が撮影されます。画像は記録装置に転送され、この画像をもとに病気について診断します。



超音波内視鏡検査

エコー(超音波)装置が搭載されたカメラで、消化管の中から診断を行います。通常の胃カメラでは消化管の表面しか見ることができませんが、超音波を用いることで、組織の内部を観察することが出来ます。また、病変の近くから観察が行えるため、詳細な病変の情報を得ることが出来ます。



内視鏡で出来る初期がん治療

内視鏡と聞くと「検査」のイメージがあるかと思いますが、内視鏡で早期がんの病変を切り取る「手術」も行っていることをご存知でしょうか。

日本が誇る画期的な治療

食道や胃、大腸にできた早期のがんを、胃カメラや大腸カメラで剥ぎ取り、病変を一括切除するという治療法をESD(『内視鏡的粘膜下層剥離術:Endoscopic Submucosal Dissection』の略)といいます。今では国が認めた保険治療として標準的に行われるに至っていますが、その歴史は比較的浅く、2006年に胃、2008年に食道、2012年に大腸が保険治療となりました。

従来の方法に比べ、綺麗で確実に取れるこの方法は日本が誇る画期的な治療法であり、世界各国から日本へ治療法を学びに来るほどです。従来の弱点であった『確実な一括切除』を克服したESDは、日常診療の中で発展を続け、今まで外科切除されていたような大きな病変も、お腹を切ることなく、内視鏡で切除が出来るようになりました。

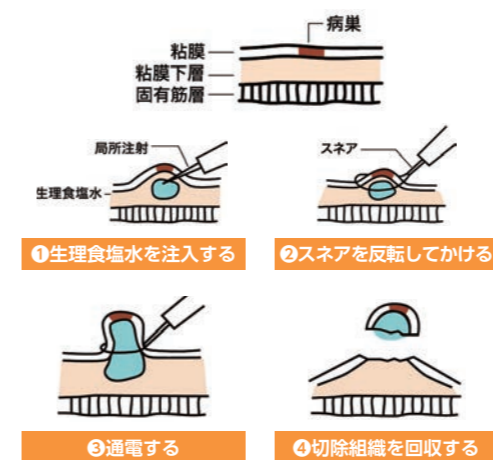
当院も新病院となり、ESDの件数は2年前に比べ2倍に増加しました。消化器センターの新体制として、ESDの技術を持った医師の充足が図られ、地域の皆様のニーズに答えることがより可能となった結果として大変嬉しく思っています。



治療前にはがんの深さが正確に確認できない時もあり、ESDの適応かどうかは内視鏡医の判断となります。この難しい判断に関して、当院では内視鏡カンファレンスを通じて複数の目で決定しています。切除後の病理組織診断結果によっては、追加の外科手術が必要になることもあります。治療を受けられる方々の利益となるよう、個々の状況に合わせた対応をしています。

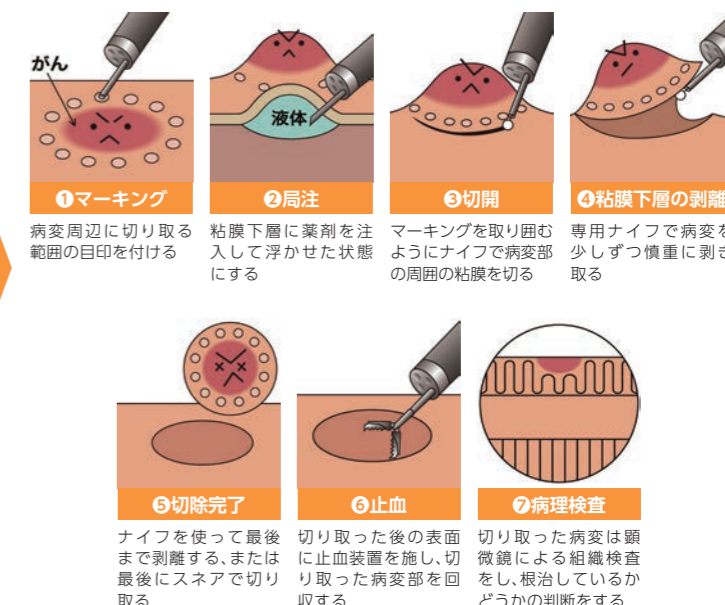
内視鏡手術の進化

従来の手法(EMR)



EMRは一度に切り取ることができる病変が、スネアの大きさ(約2cm)までと制限があります。ESDではより広範囲に病変を切り取ることができます。

ESD



〔画像提供: オリンパス株式会社〕

治療対象

内視鏡で取れるがんの原則は、「リンパ節転移の可能性がほとんどなく、腫瘍が一括切除できる大きさ」と部位にある」ことです。ESDの技術向上と使う道具の改良でその範囲は広がりつつあります。患者さんのために出来ることが増えるということは、消化器内科医にとって非常に嬉しいことです。

食道

「非常に浅い粘膜内のがんの湿潤が留まるもの」が治療対象です。ややそれより深く根が生えたがんも治療することはありますが、これらはリンパ節転移の可能性が残ります。ご家族を含めた十分な話し合いが非常に大切な領域です。

胃

腫瘍の大きさや深さなどにより細かく適応が決まっています。「がんの深さが粘膜層に留まり、腫瘍径2cm以下、潰瘍を伴わない分化型がん」が治療対象です。つまり小さくて素直な増殖をするがんです。新しいガイドラインでは、今まで外科治療していたがんに対しても、内視鏡切除を試みた上で最終判断することも許容されました。

大腸

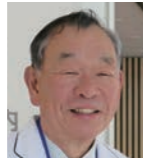
治療対象は、「腫瘍の大きさが2cm以上の一括切除が可能な早期がん(深さが粘膜下層1000μmまでに留まるがん)」とされています。ひとつ前のガイドラインに比べ大きさの制限が緩和され、より大きな病変も治療の対象になりました。

開院から2年を迎えて

桑名市総合医療センターの新病棟が、開院して2年経ちました。当初は何かと不手際があり、患者さんやご家族の皆様には多大なるご迷惑をお掛けいたしました。改めて深くお詫び申し上げます。現在は少し落ち着いて参りまして、診療機能も充実し運営も円滑化して参りました。

これからも職員一同力を合わせて病院機能のさらなる向上に努め、市民の皆様から真に愛され信頼される病院となりますよう切望致しております。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

理事長 竹田 寛



2018年5月に新病院での診療がスタートし、2年経ちました。みなさんのご協力もあり、目標であった「救急医療」「周産期医療」「がん治療」等に少しずつ成果をあげつつあります。

今後も地域の中核病院として質の高い医療機能の充実に努め、皆さんの声に耳を傾けながらより良い病院を目指してまいります。また、近隣の先生方とより密に連携し、地域医療に貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

病院長 市川 毅彦



4月に病院を支える新しい職員が増えました。

医師6名、歯科医師1名、研修医11名、看護師31名、助産師5名、准看護師1名、薬剤師1名、臨床検査技師2名、臨床工学技士2名、事務3名の総勢63名が新しく加わりました。



真心、思いやりの医療を提供します。

2018年

4月

開院



5月

外来開始



核医学検査開始



6月

放射線治療開始



桑名地区初の放射線治療ができるようになりました。

2019年

4月

400床稼働
地域包括ケア病棟
オープン



診療の充実



手術件数の増加



分娩件数の増加

2020年

3月

災害拠点病院へ



災害時発生時に医療の中核をなす病院としての役割が増えました。

With you 医療人



桑名市総合医療センター看護部の理念は、「地域の皆さまに質の高い看護を実践し、一人ひとりの思いを大切にできる看護を提供します」です。

現在、当院では約450名の看護師・助産師・看護補助者が病棟や外来、手術室、救急室、放射線室など様々な部署で患者さんに寄り添った看護を行い、チーム医療を支えています。

今回は、病棟で働く看護職員を紹介します。

笑顔いっぱい、イキイキ働いています

3年目ナース

後輩の看護師を教育・指導する年になりました。



7階南病棟
看護師 加藤 美咲

患者さんやご家族を大切に思うように、一緒に働くスタッフのことも大切に思っています。私たちが先輩に教えてもらったように、温かい目で後輩を指導することを目標にしています。困った時や悩んだ時には、一緒に立ち止まって考えられる先輩でありたいです。

ママさんナース

子育てと仕事を両立しながら働いています。



6階北病棟
看護師 加藤 和枝

未就学の子どもがいるのですが、託児所があるのでとても助かっています。調子が悪くなってもすぐ迎えに行ける利点があります。今後は病児保育や夜勤明けでも預かっていただける制度が出来るということで、今以上に働きやすくなると思っています。

主任ナースマン

男性看護師がたくさん活躍しています。



集中治療室主任
看護師 安藤 元

集中治療を行う上で必要なことは、疾患の知識および病態の変化を理解し、予測した対応やアセスメント能力・場の経験値です。スタッフへは常に患者個々の問題点を考え、優先順位をつけ行動できるよう指導しています。また、重症化を予防できるよう頑張っています。

介護福祉士

患者さんの快適な入院中のケアを担当します。



9階病棟
介護福祉士 廣川 恵

入院中の患者さんの清潔保持に努めています。清拭、陰洗、特浴、シャワー、洗髪、爪切り等の清潔ケアを看護師さんと一緒に行っています。患者さんが退院までの日々を気持ちよく過ごせるよう、これからもケアを行っていききたいと思います。

研修

一人ひとりの看護師が自己実現をめざし、専門職として自立し、主体的に活動できることを目標に、教育プログラムを企画しています。看護師の知識・技術向上のため、院内の専門資格をもった職員と共に研修を行うこともあります。

知識・技術の習得はもとよりお互いの顔や名前を知ることによってチームワークづくりにも役立っています。



病棟看護スタッフのしごと

入院患者さんの把握

看護師長とリーダー看護師がラウンドを行い、入院患者さん一人一人の病状などを確認し、看護に反映しています。



食事や身のまわりの介助

入院中のケアは看護師と介護福祉士、看護助手が行っています。食事量や日々の状態確認などは、入院生活でとても大切です。



多職種と患者さんをサポートする

服薬や点滴の管理、必要な検査の実施、血圧などの測定、多職種とのカンファレンスなどを行っています。



シリーズ がんを知ろう！

平均すると日本人の二人に一人はがんにかかるといわれています。こんなにも多くの人がかかるがんとはどのような病気でしょう？そして、その原因は何なのでしょう？シリーズでお話しします。

第3弾 定期的ながん検診で早期発見！

～がん検診は早期のがんを見つけます～

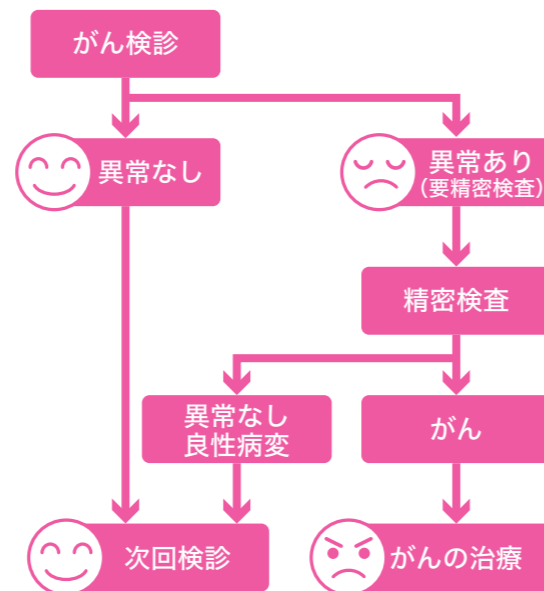
がんは進行すると様々な症状を呈しますが、初期の段階では何の症状もありません。根治可能な段階(初期の状態)でがんを見つけるためには、症状が出るのを待つのではなく、積極的に探していくことが必要です。これが「がん検診」です。早期に見つけて完治を目指しましょう。

がん検診の流れ

がん検診は身体にがんがあるかどうかを調べる検査ですが、対象は自覚症状がない健康な人です。なんらかの症状がある人は、がん検診ではなく、通常の診療を受けます。

がん検診は安価で多くの人を受診できるように、できるだけ簡単な方法で行いますので、診断の確実性はそれほど高くありません。検診で異常がみつかったら、それだけで「がん確定」とはならず、精密検査を受ける必要があります。

例えば大腸がんの検診は便潜血検査を行います。便に少量でも血液が混じれば陽性となる検査です。大腸がん以外の良性のポリープなどでも陽性になります。これらを鑑別するために精密検査として大腸内視鏡検査を行い、がんの存否を調べます。体がん協会の2017年の調査では、大腸がん検診を1万人が受診すると、600人ほどが「異常あり」と判定されますが、精密検査により、大腸がんが見つかるのは20人弱でした。つまり、がんが見つかる頻度は0.02%です。乳がんもほぼ同頻度です。



国が推奨するがん検診

現在の技術では一つの検査で全てのがんを検査することは難しく、臓器毎にがん検診を受ける必要があります。日本人に多いがんで、しかも有効性が検証され、国が推奨するがん検診は下表をご覧ください。検査項目を見ますと、胃がんでは胃X線、肺がんでは胸部X線検査となっていますが、これは効率性を重視した結果です。より精度を高めるために胃がんでは内視鏡検査、肺がんでは胸部CT検査を私は推奨します。

種類	対象者	受診期間	検査項目
胃がん	50歳以上	2年に1回	胃X線か内視鏡
子宮頸がん	20歳以上	2年に1回	細胞診
肺がん	40歳以上	年1回	胸部X線、細胞診(喫煙者)
乳がん	40歳以上	2年に1回	マンモグラフィ
大腸がん	40歳以上	年1回	便潜血検査

「運悪くがんになる」のではなく「誰もががんになる」と発想を転換し、がん検診を受けて積極的にがんを見つけましょう。



副理事長・病理診断科
白石 泰三 医師
1953年愛知県生まれ
1979年三重大学医学部卒業
1983年同大学院修了
元三重大学医学部
腫瘍病理学講座教授
福井医科大学、三重大学を経て
2016年4月より現職。

Pick UP

主な取り組み

楽しく健康を目指す 卓球カフェの取り組み



卓球珈琲とは、卓球とコーヒーを通じて地域住民の健康増進とコミュニケーションの活性化を図ろうとする運動で、桑名市、桑名市総合医療センター、桑名医師会、卓球で日本を元気にする会、ネスレ日本、朝日エルなどが共同で行っています。

第1回プログラム(2019年9月～11月)のご報告

開催場所	桑名市城南まちづくり拠点施設
参加者	17名(男性4名、女性13名)
内容	プログラムの開始前後に、血糖やコレステロールなどの血液検査、血圧、体水分量などの測定を行い、精神面に関するアンケート調査も行って、その変化を調べました。参加者の方には毎日適度に卓球を楽しんでいただき、月2回専門のインストラクターによる卓球指導と、糖尿病専門医などによる月1回のヘルスケア教室を受けていただきました。また休憩時には、ネスレ日本の提供によるコーヒーサーバーを囲んで寛いでいただきました。

3か月後の効果

- 1) 血液検査では中性脂肪や悪玉(LDL)コレステロール値の低下する傾向がみられた。
- 2) 細胞外水分比の減少がみられ、体の中の水分均衡が改善しているものと考えられた。
- 3) 体の痛みが減少し、活力が上昇して、日常生活での身体機能の改善が顕著であった。
- 4) 「明るく楽しい気分で過ごせた」「落ち着いたリラックスした気分で過ごせた」「意欲的で活動的に過ごした」「ぐっすりと休め気持ちよく目覚めた」「日常生活の中に興味のあることがたくさんあった」など、精神面での改善が顕著であった。
- 5) 地域への愛着という点では全般的に改善がみられ、特に男性において「地域をもっとよくしたい」「地域の中に生きがいがある」「地域に誇りを感じる」「地域に挨拶できる人がいる」など、地域に対する愛着度が増大した。

地域における高齢者の孤立は大きな社会問題です。特に男性においては深刻ですが、卓球珈琲を通じて少しでも改善できる可能性があることがわかりました。終了式では参加者全員が実に仲良く、和気あいあいとして、楽しそうにしていました。

2月19日(水)にパシフィコ横浜で開催のサステナブル・ブランド国際会議2020横浜において、「全国初！卓球とカフェで元気なまちづくり 公民連携で取り組む健康寿命延伸プログラムの成果」として、竹田理事長と糖尿病内分泌内科の堀田医師が発表してきました。参加者から自分の地域でも参考にしたいなどの声も聞かれ、出席者の満足度ランキングでは、74セッション中第5位という結果でした。



★ 女性が働きやすい医療機関に 認証されました

妊娠や子育て、家族の介護を担う職員への制度整備や働きやすい環境づくりなどへの取り組みが評価され、三重県から『女性が働きやすい医療機関』として認証されました。

3月13日に認証式が行われ、鈴木英敬三重県知事より認証書が授与されました。



+ 世界糖尿病デーを開催しました

世界糖尿病デーの一環として、11月11日～13日に“KUWANA 糖尿病WEEK”を開催しました。

午前中は、啓発展示や血圧・血糖測定、健康相談などを行いました。午後は、日替わりで医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士による市民公開講座を行いました。



📄 災害拠点病院の 指定を受けました

三重県知事より災害拠点病院の指定書が授与され、当院は災害拠点病院になりました。これにより、北勢地域の災害拠点病院は、いなべ総合病院と当院の2施設となりました。

災害時には、当院で初期救急医療を担うと共に、災害派遣医療チーム(DMAT)による災害現場での医療活動を行います。



🏠 旧棟の解体が終わりました

10月より旧棟の解体工事を進めておりましたが、3月に終了し、がれきの撤去作業も終わりました。今後は西棟外壁の塗装、平面駐車場の外構工事を行います。跡地は本年8月頃、64台の駐車場、駐輪場、バイク用駐輪場として運用を開始する予定です。



Gallery ギャラリー } 絵画等がたくさん飾られているのはご存知ですか？

院内には、寄贈いただいた絵画などがたくさん飾られています。Galleryでは、竹田理事長による作品紹介をシリーズで掲載しています。いろいろな作品がありますので、来院の際にはぜひ本物を探して、お楽しみください。



ジャン・カルズー(Jean CARZOU)画(水彩画12号 平田家寄贈)
展示場所:入院棟4階廊下

ジャン・カルズーは1907年シリアに生まれ、1924年パリへ移住します。モンパルナスの美術研究所で絵画を学び、1931年頃よりアンデパンダン展などに出品して画家としてデビュー、1939年パリで初めての個展を開いた後、ニューヨーク、東京など世界各地で個展を開催します。リトグラフや水彩画を得意としますが、新聞や雑誌の挿画さらにヘミングウェイの小説やランボーの詩集の挿絵など、幅広い創作活動を展開します。1954年イル・ド・フランス賞、1955年東京国際絵画ビエンナーレで文部大臣賞、さらにレジオン・ドヌール勲章などを受章し、1978年にフランス・アカデミー会員に選ばれました。2000年93歳で死去。鋭い直線や曲線を用いた繊細な表現と単純な色彩で描かれるカルズーの風景画は、具象的でありながら幻想的で、見るものを一種異様な世界へ誘います。

西田昇三氏は、元桑名南医療センター(平田循環器病院)院長で故平田和男先生の長年にわたる患者さんで、先生から健康のために絵を描くことを勧められ、それ以後ライフワークのように絵画を制作されているとのこと。

油彩画「郷愁」は、平成26(2014)年度の第65回みえ県展の洋画部門において優秀賞(三重県議会議長賞)を受賞された作品です。ドカ雪の降った後の里山でしょうか、夕暮れ時、空の雲はオレンジ色に染まり、屋根や庭に降り積もった雪が夕陽に映えてほんのり照り輝きます。画面中央に大きく描かれた茅葺屋根の古民家のどっしりとした重厚感、存在感が見る者を強く惹きつけます。今ではほとんどみられなくなった昔懐かしい里山の光景に遭遇したようで、「郷愁」というタイトルにふさわしい「やすらぎ」を覚える名画です。



郷愁 西田昇三画(油彩画 西田昇三氏寄贈)
展示場所:入院棟3階廊下

看護部のユニフォームが変わりました

4月より看護部(看護師、介護福祉士、看護助手)のユニフォームが変わりました。





新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルスは、世界各地に感染が広がり『パンデミック(世界的な大流行)』が起きたと世界保健機関(WHO)によって宣言され、日本でも全都道府県に緊急事態宣言が発令されました。三重県でも感染が報告されています。当院でも、面会禁止の実施など、感染対策により患者さんやご家族にご迷惑をおかけしております。

皆さまのご協力に感謝申し上げます。

面会制限について

医師や看護師などの医療スタッフが来院を依頼した場合を除き、**面会を禁止**しています。面会時は入院棟3階総合案内において必ず受付及び体温測定を行ってください。

お荷物の預かりについて

・入院に必要な物品などの補充(着替えや水など)の対応(ご家族→患者さん)

受け渡し場所で病院職員がお荷物をお預かりし、病棟へお届けします。

・洗濯物などの持ち帰りの対応(患者さん→ご家族)

事前に病棟へ電話でご連絡いただき、受け取り希望日をお知らせください。

受け渡し場所にて、病棟から預かった荷物を、ご家族にお渡しします。

受け渡し場所	入院棟3階総合受付付近
受け渡し時間	15時～16時(土日・祝日も対応します)

当院の対応について

予定している検査や手術の延期、電話による処方箋の発行について対応しています。対応の可否については主治医の判断が必要になりますので、ご希望の方はお電話でご相談ください。

また定期受診の際は、必ず来院前に体温測定を行い、発熱がある場合は事前に受付スタッフに申し出てください。

電話番号	0594-22-1211(代表)	平日14時～17時	ご希望の診療科をお伝えください。
------	------------------	-----------	------------------

感染拡大を防ぐために

- ・体調不良を感じたら外出せず、自宅で様子を見る。
- ・不要不急の外出を避ける。
- ・手洗いは石鹸でこまめに行い、咳エチケットを守る。
- ・発熱(37.5℃以上)や風邪症状が続いたり、強いだるさや息苦しさがある場合には、直接病院や診療所を受診せず、まずは各地域の保健所等に設置された「帰国者・接触者相談センター」へ、電話で相談してください。

電話番号	0594-24-3625(桑員地区)	9時～21時
------	--------------------	--------



※上記の情報は5月1日現在

新入職員募集! (2021年度4月採用)

看護師・薬剤師を含めた
メディカルスタッフを募集しています。

詳細については
WEBをご覧ください。

